

温室効果ガス削減実施状況報告書

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

JFEスチール株式会社 西日本製鉄所(福山地区)

(2) 事業所の所在地

広島県福山市鋼管町1番地

(3) 業種

2211 高炉による製鉄業

2 計画の期間

本計画の期間は、平成 25 (2013) 年度を基準年度とし、令和 3 (2021) 年度から令和 6 (2024) 年度までの 4 年間とする。

3 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標の達成状況

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量 (t-CO₂)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度実排出量 (a)	目標年度 上段：見込量 (b) 下段：削減率 (c)	計画期間の実績 (上段：実排出量 (d)，下段：削減量の対基準年度比 (e))				
	平成25年度 (2013)	令和6年度 (2024)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024)	
エネルギー 起源CO ₂	20,961,469	20,861,469 -0.5	21,635,507 -3.2	20,428,208 2.5	— 100.0	— 100.0	
非エネルギー 起源CO ₂	—	— 0.0	— 0.0	— 0.0	— 0.0	— 0.0	
メタン	—	— 0.0	— 0.0	— 0.0	— 0.0	— 0.0	
一酸化二窒素	—	— 0.0	— 0.0	— 0.0	— 0.0	— 0.0	
その他 温室効果ガス	—	— 0.0	— 0.0	— 0.0	— 0.0	— 0.0	
温室効果ガス 実排出量総計	—	— 0.0	— 0.0	— 0.0	— 0.0	— 0.0	
温室効果ガス みなし排出量		—	—	—	—	—	
実績に対する 自己評価	生産量減少の影響もあるが継続的な省エネ設備投資、運用改善等による省エネに取り組んでいる結果、基準年度と比較し温室効果ガス排出量は2.5%の減少となった。						

※ 削減率 (c) = ((b)-(a))/(a) × 100 削減量の対基準年度比 (e) = ((a)-(d))/(a) × 100

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標：

—

温室効果ガスの種類	基準年度の実績 (a)	目標年度 上段：目標 (b) 下段：削減率 (c)	計画期間の実績 (上段：原単位実績 (d)，下段：削減量の対基準年度比 (e))				
	平成 年度 ()	令和 年度 ()	令和 年度 ()	令和 年度 ()	令和 年度 ()	令和 年度 ()	令和 年度 ()
エネルギー 起源CO ₂		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
非エネルギー 起源CO ₂		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
メタン		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
一酸化二窒素		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他 温室効果ガス		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
温室効果ガス 排出量総計		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
エネルギー消費原 単位 (原油換算 kl)		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
実績に対する 自己評価							

※ 削減率 (c) = ((b)-(a))/(a) × 100 削減量の対基準年度比 (e) = ((a)-(d))/(a) × 100

4 温室効果ガスの排出の抑制に係る具体的な取組の実施状況

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組

	項目	削減量等	具体的な取組
1	炭材、燃料ガスの削減	設備投資、運用改善にて 71,000 t-CO2/年	製銑工程での炭材使用量の低減、 設備の健全化及び運用方法等の変更
2	省電力の推進		待機電力の削減、高効率電動機等の導入
3	設備高効率化		設備更新時における設備高効率化 (変圧器、空調機、照明等の高効率化)
4	操業最適化		能率アップによる固定エネルギーロス削減

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組（環境価値の活用等）

	種類	合計量
1		
2		
3		

○ その他の取組

	項目	削減量等	具体的な取組
1	廃棄物排出量の削減	—	・両面コピー、裏面利用等 ・分別回収及び資源化の徹底
2	自動車使用の合理化	—	・各種会議等のオンライン会議を推進し、車 両移動の低減
3	—	—	—

※ 環境に配慮した実践的な取組などをされていれば記入してください。